

日東精工は健全な企業活動を通じて これからも地域に社会に 貢献していきます

～経済産業省近畿経済産業局伊吹英明局長を
お招きしてのスペシャル対談～



昨秋、当社代表取締役社長材木正己が受勲いたしました。勲章授与式が12月3日に当社本社で執り行われ、経済産業省近畿経済産業局の伊吹英明局長に足をお運びいただきました。

授与式のあとは当社の歴史や事業を改めてご説明する時間を設けさせていただき、
なごやかな会談となりましたので、今号のニュースレターではその模様をダイジェストでお伝えします。

伊吹英明経済産業省近畿経済産業局長 (以下：伊吹)
この度の叙勲おめでとうございます。

材木正己当社代表取締役社長 (以下：材木) ありがとうございます。私個人の名前でいただいているのですが、もちろん日東精工という会社を代表し

てのものだと思っています。社の諸先輩をはじめ従業員はもちろん、地域の多くの方々のご理解やサポート、つながりがあってのことです。会社を通して幾ばくかの地域貢献をさせていただいてきたことをご評価いただいたものです。この「旭日

双光章」を励みに、さらに精進していかねばと身を引き締めております。

伊吹：今、社長が会社をとおっしゃいましたが、実際、日東精工さんという会社は以前、経済産業省の「コネクターハブ企業^{※1}」のモデルに選定されるなど、地域に根差した地域密着、地域貢献型の企業だと理解しています。そもそもどういう経緯で生まれたのでしょうか。最初から



勲章と位記を前に伊吹英明局長 (向かって右) と当社代表取締役社長材木正己

※1 コネクターハブ企業 国内に拠点をおき、その企業が所在する地域内から多くの仕入れを行い、取引関係のハブとなり、そして地域外へ販売 (他地域との取引をつなげる) コネクターの機能を担っているのが「コネクターハブ企業」。「協力企業群育成型」(産業が集約していない場所に立地し、調達先を長期的に育成。取り組み内容は人材育成にまで及び、地域貢献への意識が高い) コネクターハブ企業として、当社日東精工の事例が経済産業省の2014年の白書に丁寧に紹介された





経済産業省近畿経済産業局の伊吹英明局長。近畿経済産業局からは局長をはじめ総務企画部と産業部から計5名の方に来社いただき、勲章授与式後には応接室にてなごやかに会談、そしてその後当社の工場を視察いただきました



ねじづくりをされていたのでしょうか？

材木：簡単に当社の歴史をご説明すると……、ご承知のようにここ綾部でグンゼさんが明治29年に創業され、「表からみれば工場、裏から見れば女学校」といわれるほど社員教育、地域貢献をされてきました。それにより女子の雇用や教育は充実したので、今度は男性の働き口を創出しようということで、昭和13年、地域の金融機関や商工会議所などの有志が集まってつくったのが、当社、日東精工です。ですから極端に言えば、事業内容をどうするか以上に、地域のためにということがいっの一番の命題だったわけです。

創業当初は部品の修理や下請けなどもしていたのですが、会社を成長させるには会社の価値を高めないといけない、そのためには自社でモノづくりをしないといけないということで、自社ブラン

ドのカメラをつくっていた時期もありました。そして昭和31年、ねじの金型のテストを請け負うことになり、そのテストのためにたくさんの試作品のねじができた。このねじを無駄にするのはもったいないと、ねじも販売することになった……じつはこれがねじづくりのきっかけです。日本ではじめてということではないですが、いまでは生産総量では日本だけでなく世界でもトップクラスです。

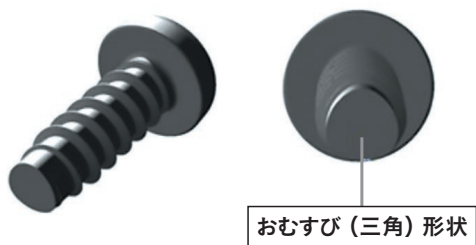
伊吹：ねじといってもいろいろな種類があるわけでしょう。国内外に競合会社もたくさんあるなかで、御社の優位性を保たれている秘訣はなんなのでしょう。ただ安ければいいという価格競争とはまったく違う土俵に立たれているわけですね。

材木：ええ。わが社の強みの一つはすべてを一貫生産していることです。どんな材料をどういった工程で、どのラインでつくったかなどトレーサビ

リティがしっかりしているのです、万が一のトラブルだとか、以前の製品をバージョンアップさせたいといった声にもすぐに対応できる、お客様からの信頼度が高いわけです。また、ねじ（工業用ファスナー）だけでなく、それを締めるねじ締め機やねじ締めロボット、あるいはしっかり締まったかなどを検査・計測する機器まで、つまり締結分野すべてに対応しているのは、世界でも他に例がないほどです。このようにトータルソリューションができるのも強みです。

伊吹：ニッポンが世界に誇れるモノづくりの技術ですね。

材木：一般にはあまり知られていませんが、めねじ加工の不要なタップタイト®というねじがあり、これがいろいろな産業分野で使われています。このねじの胴部はおにぎりのような三角形状になっていて、締めやすいけれどゆるみにくのが特徴です。もともとアメリカで生まれたねじで、コンチファスナーズAG社のライセンスを受けて製造していたわけですが、当社で技術改良をしたことで、省力化やコスト削減を実現しました。この「コンチ生まれで日東育ち」のねじが、世界に広がっているわけです。ねじについて語りだすと止まらなくなりますが、量でいえば年間188億本、種類でいえば9万種※を製造しています。



おむすび(三角)形状

ローカルをしっかりと守りながら グローバルな展開

伊吹：業績はどうですか？ やはりコロナ禍での影響は大きかったですか？

材木：じつはおかげさまで、良い結果になりそうです。

伊吹：このご時世、それはすごいですね。

材木：たしかにコロナの影響は大きかったのですが、経費その他、見直せるものは徹底的に見直し、経営の低重心化を図り、何とかコロナ1年目の危機を乗り越えました。そして今期、状況が改善されて売り上げが回復してきても、この低重心化を変えていないので、収益体質が強化されています。

伊吹：苦しい状況のときにしっかり手を打たれたことが大きいわけですね。苦しい状況というのは、これまでも何度かあったわけでしょう？

材木：オイルショックやバブル崩壊、あるいはリーマンショックのときは影響を受けましたし、戦後の一時期は給料の遅配ということも経験しました。それを諸先輩が知恵を絞って乗り越えてきたので、今があります。また苦しいときに地元の人にずいぶん助けられてきました。そんな歴史も踏まえ、われわれは自分たちだけが儲かればいいとは考えないで、皆がWIN-WINの関係でないといけないと考えています。当社に関わるすべての会社、すべての人が幸せになってほしいと考えています。

伊吹：もともと私は経産省で、自動車関連を担当してきました。世界的な自動車メーカーさんも、どんな状況になったとしても、ここはしっかりと守るという地元の企業を数十社抱えておられます。ローカルをしっかりと守りサポートしながらグローバルな展開をしていく、日東精工さんはそれと同じことを綾部でしっかりとされているわけですね。

※188億本は2017年実績、9万種は2021年までの累計値



旭日双光章を授与された
当社代表取締役社長
材木正己

優秀な人財確保のためにも 会社が魅力的であること

伊吹：従業員の方はやはり地元の方が多いのでしょうか？人財確保にはあまり苦勞されることはないのでしょうか？

材木：綾部をメインにお隣の福知山や舞鶴など京都北部、地元出身者が多いです。綾部にはグンゼさんのほかにも工業団地には有名企業の工場もいくつかあります。でも他社との比較ではなく当社の社会貢献^{※2}を通して、日東精工という企業の理解を深めてもらい、いかに魅力を感じてもらうかが大事だと思っています。うちにはたとえば親子

2代3代でといった社員も少なくはないのですが、少なくとも自分の子供を自分が働いているこの会社に入れたいと思えるような会社であり続けたいと、そう思っています。

伊吹：そうすると、たとえば地元の小学生を対象にした工場見学なども積極的に受け入れられているわけですね。

材木：コロナ禍で中断していましたが、また復活していきたく思っています。わたしどもにはユニークな資格制度があって、たとえばモデルフォレスト（森林保護）活動に参加するとか、由良川の河川清掃に参加すれば何単位というように、会社の業務以外の地域貢献活動や自己研鑽のための努力を評価点にして、一定の点数（単位）に達しないかぎりは昇格試験を受けられないようにしています。ただ会社の仕事だけをこなせばいいというのではなく、人としてしっかり成長しなければという人財教育をしています。

伊吹：いい人財を求めるのも大事だけれど、人を育てるといのはそれ以上に必要なことですね。

材木：なかなか難しいことでもありますが、それもまた自分たちだけでなく、地域全体でと考えています。昭和41年設立ですからもう50年以上になりますが、綾部工業研修所^{※3}という民間教育機関を設立し、当社社員だけでなく、地域の若い人が会社就業後に学び技術を習得する場を設けていま

※2 社会貢献 当社は企業間取引をメインにする会社だがエンドユーザーとの方との接点も大切なものと考えており、ねじ工業会や能率協会、あるいは地元の商工会議所が主催する子供向けイベントなどでねじづくりのワークショップを実施したり、海外からの実習生やQC大会の報告に來日した現地法人社員と本社のある綾部の中学校で国際交流会を開いたりしている。P6でも紹介しているが毎年綾部市図書館に児童書を寄贈するなど、次代、若い世代につなげること、育成に力をいれている

※3 綾部工業研修所 綾部工業研修所は昭和41年、当社日東精工の呼びかけで設立された。高等学校や専門学校などの公的教育機関でなく、また一企業の研修機関でもない「地域内における中堅技術者養成」のために生まれた全国でも稀な民間教育機関。仕事を通して先輩や上司から学べることも多いけれど、就業時間外に週に2回の夜間学校で系統立てて学ぶことで、地域の技術者のレベルアップを図っている。当社から毎年講師を派遣し、これまで約55年間で1500名以上の卒業生を送り出してきた。最近では産学連携で京都工芸繊維大学などの協力も得られ、よりいっそうの広がりを見せている

す。京都工芸繊維大学さんなどにもご協力いただいています。当社の社員も講師になっています。そのほか、つい先日も、当社の人事課長が京都工業会の「エンゲージメント」関連のセミナーで講師を務めさせていただいたようですが、伝えたり教えたりすることは自分たちの学びにもなっているようです。

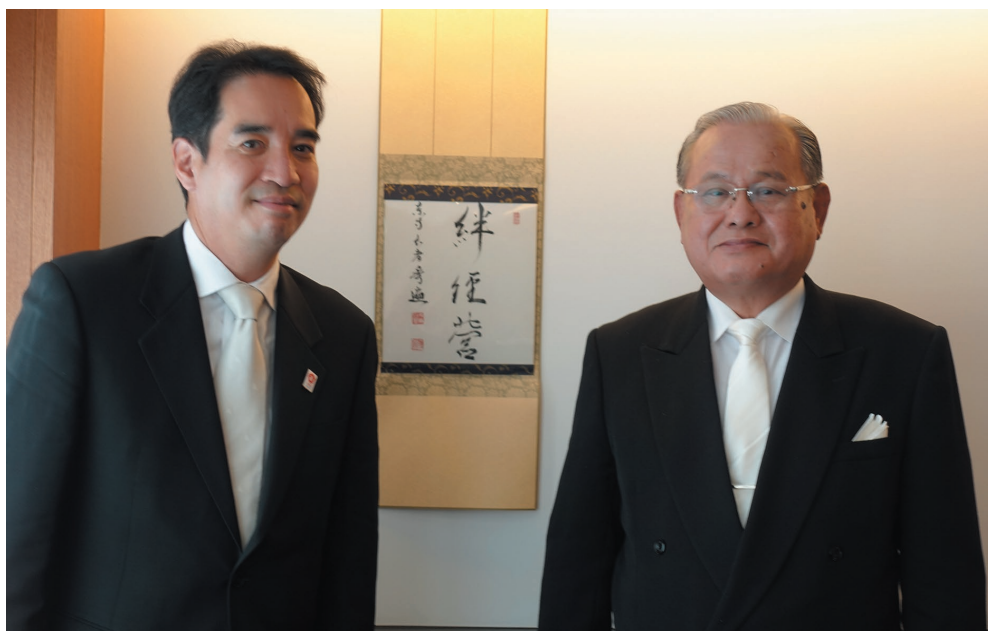
伊吹：最近ではCSR（地域貢献）とかSDGs（持続可能な開発目標）などといわれますが、日東精工さんはそういった言葉が話題になる以前から、そういった活動を先駆けておやりになっているわけですね。今うかがった綾部工業研修所も短期的な視点でなく、長期的な視点に立たれて、しかもずっと継続されているのは素晴らしいですね。

材木：そのほかにもやはり技術系の優秀な学生にも来てほしいですから奨学金制度も設けていますし、今年から新たな試みとして、職業訓練大学への国内留学制度（一旦、日東精工に入社してもら

い社員として給料を払いながら、2年間職業訓練大学で学んでもらう制度）などもはじめています。ねじの会社ですから、次代につなげることを大切に〈絆経営〉を理念に掲げています。

伊吹：企業にとって大事なことは利益を上げて事業を継続していくことと、その利益を株主だけでなく社会に還元していくことだと考えますが、その両輪をしっかりとまわしておられますね。御社もかつてはそうだったと思いますが、秘するが花といますか、自社の活動をあまり表に出さない、それが会社の品格であると思われる傾向がありますが、そうではなく、いいことは皆で共有していく時代です。いいことはどんどん真似をしてもらってほしいわけです。日東精工さんには地域密着・地域貢献のモデル企業として、さらに新しいことなども試みながら、どんどん発信していただければと思います。

材木：きょうは本当にありがとうございました。



当社応接室に掛けられた絆経営の掛け軸の前で伊吹局長と材木

「旭日双光章」勲章授与式が執り行われました

巻頭特集でも紹介しているように令和3（2021）年秋の叙勲で、当社代表取締役社長材木正己が「旭日双光章」を受章しました。材木は経営者として、一部上場企業である当社を安定成長させ、それを通じて地域貢献・社会貢献をしてまいりました。また、国や京都府、綾部市などいくつもの業界団体の役職を歴任。たとえば京都工芸繊維大学の経営協議会委員や京都経営者協会副会長、綾部市の防犯協会会長などを務め、地域の発展、人材づくりに積極的に関わってきたことなどが高く評価されたものです。

12月3日に勲章授与式が執り行われました。経済産業省の近畿経済産業局伊吹英明局長に京都府綾部市にある当社本社まで足をお運びいただき、位記と勲章を授与いただきました。社内での授与式でしたので、材木本人だけではなく当社役員や秘書担当なども参列し喜びを共有することができました。



上は勲章授与式、下は勲章を胸につけ位記を手にする材木と伊吹局長、そして当社役員・従業員

「旭日双光章」

日本の勲章の一つ。対象者は公職では政令指定都市以外の市長、特別区の区長など、公益団体では都道府県区域を活動範囲としている団体の長、全国または都道府県の区域を活動範囲としている団体の役員、企業経営者では国際的に高い評価を得た企業や技術がとくに優秀な企業の最高責任者である



国璽（国家の表徴として押す印）がある位記。印影の左下は完全を目指すということで敢えて少し欠けている



NITTOSEIKO'S SDGS (サステナブル経営推進)

綾部市図書館に児童書を寄贈しました

当社では書籍『人生の「ねじ」を巻く77の教え』の実売原税を原資に2014年から毎年、児童書を購入し綾部市図書館に寄贈しています。2021年12月11日に綾部市図書館で開催された「冬の集い（人形劇やバイリンガル絵本の読み聞かせ会）」のなかで贈呈式が行われ、綾部市から村上元良教育長、当社からは代表取締役常務荒賀誠と経営企画室長坂本禎人が出席。小さな子どもたちに高校生のボランティアが新しい本を紹介するなごやか時間となりました。当社では大切なものをつなげていくために、次代、次々代を担う子どもたちをこれからもサポートしてまいります。



荒賀から村上教育長に目録を授与（左）、2021年度は子ども向けに「SDGs」を解説するシリーズをはじめ全124冊を寄贈



異種金属結合「AKROSE」について講習会を開催

当社の異種金属接合技術「AKROSE（アクローズ）」は、工業用ファスナー（ねじ）の開発・製造を通じて培った冷間圧造技術によって素材を成形した後、その素材同士（複数個）をプレス加工により強固に接合させる新しい異種金属接合技術です。昨年12月14日、広島市工業技術センターにて「AKROSE」についての講習会を開催、現地とWEBの両方にて、多くの方に聴講いただきました。今後も新しい技術をより広く、そして深く訴求してまいります。



AKROSEについての
詳細はこちらから▲

「あやべ球場」の愛称が「あやべ・日東精工スタジアム」に

当社が本社をおく綾部市にある「綾部市総合運動公園 あやべ球場」は両翼が101m、中堅が123mあり甲子園球場よりも広い球場で、市内外の多くの方に愛されている球場です。今般、当社がネーミングライツを獲得。1月5日、綾部市役所まちづくりセンターにおいて契約締結式が行われました。「あやべ・日東精工スタジアム」という愛称で、これまで以上に親しまれる施設となるよう、当社も支援・応援をしております。



山崎善也綾部市長（左）と当社代表取締役社長 材木正己

日東精工グループ紹介

九州日東精工 / 福岡

笑顔忘れず、技術提案型営業が強みです

九州日東精工株式会社は九州におけるねじ製造・販売を目的に1969（昭和44）年に設立された合弁会社。現在は日東精工の製品をメインに、精密金属加工品、樹脂成型品など特注品も販売しています。北九州にはトイレ・バスなどの住設関係、宮崎には自動車関係、熊本には半導体関係など、グローバルに展開する企業の工場が九州各地に点在していますが、同社ではこれら各エリアに営業所を設け、お客様により近いところで、きめの細かい対応を実施してい

ます。また海外では香港、台湾、中国、タイ、ベトナムの拠点でネットワークを構築しているのも強みです。お取引先様への訪問対面を大切にしているので、コロナ禍の収束を願っていますが、実は2年前に社内のIT・デジタル環境を見直しパーシオンアップを終えていたおかげで、リモートでの打ち合わせなどに速やかに対応でき、お取引先様からも好評をいただきました。



創立50周年の節目に社史制作や企業理念・モットーなどの見直しを計画していましたが、コロナ禍で予定から遅れていますが、時代を見据えたより良いものを丁寧に作っていきます。お取引先様から「九州日東精工の社員の皆さんは、人柄が良いですね、笑顔が良いですね」と言ってもらえます。正直、笑顔でいられない厳しい場面もありますが、それでも笑顔を大切にしたい。そしてそれを裏打ちするプロとしての技術提案営業力も高めてまいります。（福岡治社長）



喜びと感謝を忘れずに

以

前に、このニュースレターで、物理学博士の志村史夫さんと対談をしたことがあります。「人類が発明したなかでベスト1はねじ」といい、ねじをこよなく愛する学者さんなのですが、その対談でご紹介しなかったエピソードをひとつご紹介しましょう。

志村先生が以前に「子どもの理科嫌いを減らすにはどうしたらいいか」というシンポジウムに招かれたとき、出席しているのは学校の先生方でしたが、「このなかで、理科が好きで好きでたまらない人はどれくらいいるの？手を挙げて」という問いかけに、挙手で応えた先生はゼロだったというのです。もちろん、その場の空気とか謙遜というものも少しあったのかもしれませんが、「自分が好きでないのに、どうやってその魅力を子どもに伝えることができるのか」とがっかりしたというお話でした。

もちろん小学校の先生にも得手不得手があるでしょう。でも、与えられた教材を使って何度も繰り返ししているうちに、先生自身がこういうものだという枠のなかにとらわれてしまい、いつの間にか「好き」を忘れているのかもしれない。

たしかに、日々の暮らしのなかでマンネリになることがあります。最初は新鮮で感動していたことがいつの間にか当たり前になってしまい、喜びを忘れてしまうということはよくあります。喜びがなければ感謝もなくなってしまいます。好きになるのは簡単でも好きを続けるのは案外難しいものです。

しかし意識をもって繰り返し、同じように思えることにも気づきが生まれ、日々の変化に喜びも生まれます。仕事でも日常生活でも同じですね。それがルーティン。マンネリとルーティンは似て非な

るものです。マンネリはただ漠然とした繰り返しですが、ルーティンとはしっかりとその意味を理解したうえで繰り返しです。言葉を変えれば、「好きであること」「喜び」の確認作業ともいえるでしょう。

おかげさまで2月11日、当社は創立84年を迎えることができました。

創立記念日には毎年、社員一同、感謝と喜びをもって、先人の方々に思いを馳せていきます。いつもいいことばかりとは限りません。それでもどこかに喜びを見いだしてい

たい、小さなことにも喜びを見いだせる感性を磨いていきたい、喜びを皆で分かち合いたい、この積み重ねが大事だと思っています。それが当社の幸せ経営であり、経営の基本です。

社は「我らの信条」は「感謝の心を仕事に活かして社会に貢献する」で結ばれています。また当社の人材教育をまとめた書籍『人生の「ねじ」を巻く77の教え』のいちばん最後77番目は「ありがとうのチェックリスト」です。皆様の日ごろのご厚情に心からの感謝を申し上げます。

連載④

あやべ ちょっと寄り道

ねじのおもちゃ、見つけた！

当社が本社をおく京都府綾部市の街中で「chirp (チャーブ)」という雑貨と木のおもちゃのお店を見つけました。ヨーロッパの木のおもちゃやフェアトレード雑貨、北欧雑貨などを取り扱っているほか、カフェも併設されていて、ここで各種ワークショップなどが開かれていたり、ドイツのボードゲームを楽しんだりできるのです。写真は「ねじ」のおもちゃと「ねじ」を使ったパードコール、こんなふうに都会やネット検索でもあまり見かけない商品に出会えるかもしれません！

